

中森 一郎 専務

——いや、自分はこれがしたいから

5月25日は生協の創立記念日。そこで、京大OBであり学生時代も京大生協学生委員会で活動されていた京大生協の中森一郎専務にお話を伺った。（和三盆）

人生の方向転換

——生協運営ってどういうものですか？

民間企業なら当然もうけるために仕事をするわけじゃない？ もうけるのも大事なんだけど、大学生協の場合は根本的な使命は「**キャンパスをよりよくしよう**」ということなんだ。食堂の運営や旅行の手配だけでなく、もっと学生同士が交流できるような場を設けることも当てはまるな。その点は学生委員会の活動と同じだと思うけど。利潤を追求することと併せて、キャンパスの組合員がもっとより良い生活を送れるようなことに携わるというのが大学生協の仕事かなって僕は思うね。

——初めから生協に興味が？

あったわけではないね、もちろん。大学に入った時は国家公務員を目指してたね。いわゆる霞ヶ関に行こうと思って京大法学部に入ったから。当時は政治に興味があって政治関係の小説を読んだりしてたね。でもいろいろあって志が変わって生協職員になったんだわ。

——そのきっかけは何ですか？

合格が決まった後、一人で下宿を探しに来たとき、生協の下宿探しのコーナーに行ったら、学生委員会の先輩が親切に面倒を見てくれたんだ。その日のうちに契約はできなくて翌日にということになったんだけど、「明日来ます」って言ったら先輩に「せっかくだから泊まっていったら？」と言われて。当時は新入生センターに下宿用品の展示品があって、留守番みたいな感じで学生委員が泊まってて。そこにに入れてもらったんだ。そのときに学生委員会に誘われてね。**合格してもう次の日には生協の学生委員会に入ることになったわけだ**。それが最初だな。

——では国家公務員試験は？

試験は受けたよ。4回生で受けたけど、落ちちゃった。それで留年して5回生でも受けたけど、学生委員会の活動を一生懸命やってたからまた落ちて。でもそのあたりから別に国家公務員でなくてもいいと思ったんだ。世の中の仕組みや行政を変えたいと思ってたけど、

国家公務員だけが世の中を変える術ではないと思うようになったね。生協の活動はいろんな人が知り合って一緒に物事をよくするっていう感じだったから、そっちの方が性に合ってるなど。

——就職してからで、印象に残っていることはありますか？

時計台旅行センターで働いていたとき、初めて一人で海外旅行に行く学生を相手したことがあって。大丈夫かなあこいつ？ って思ったけど、本人がどうしても行きたいってことでこっちもパスポートの取り方からいろいろサポートしたんだよ。その後その人が帰ってきたときには非常にたくましくなったなあっていう印象を受けたね。

学生自身の進路や人生に大きな影響を与える仕事ができたっていうのがうれしかったな。そういう**学生の人生に大きく関われるのが非常にやりがいがあるね**。さっきも言ったように少しは「キャンパスをよりよくする」ことができたって自画自賛してるけど（笑）。

（文・院 うむ）
（なんで無理して僕は待つのか；編）

専務の野望

——生協でのこれからの目標や野望はありますか？

難しいことを聞くね（笑）。生協は学生さんのより良い大学生活を作る、っていうのはいつまでたっても同じなんだよね。一方で学生像が着々と変化している部分もあるじゃない？ たとえば中央食堂の「ぼっち席」とか。あれはあれでヒットしてるんだけど、僕らからすると飯は人と話しながら食うもんだと思うんだよね。人と話したり友達を作ったりしていくことで学生生活がスムーズにいったり自分の進路が決まってくっていくところがあると思うんだ。特に新入生とかは大多数が漠然としか進路を決めてないわけじゃない？ で、その漠然としか決まってない中で人と関わりあいながら明確な進路を決めていくっていうプロセスは大事だと思うんだ。

だから**学生像が変わっても、他人と交流できる場を提供し続けていきたいね**。

——じゃあ、特にこれは力を入れたっていうものは？

就活のサポートはもっと真面目にやっていきたいね。僕が「大学生協に就職する」と親に言ったとき、親に泣かれて（笑）。そら泣くよねえ。だって当時はバブルも終わりのほうだから、京大の法学部出たら何もしなくても有名企業からほぼ内定をもらったりっていうのが実際あったわけ。親は普通にそういうところに行っていほしかったんだろうけど、僕は「**いや、自分はこれがしたいから**」って言って大学生協に就職したからね。だからね、自分の就活のときはめちゃくちゃ悩んだんだ。就活を通じて「自分は社会にどう貢献していくんだろう」とか結構真面目に考えたね。そう考えるのは非常にいい経験だと思うから、大学生協としては学生に将来について真剣に考えるきっかけを提供したいって思うね。

ちょっと雑談

——学生委員会の活動は熱心だったそうですが勉学の方は？

うーん、熱心だったとは言えないね（笑）。一応国家公務員を目指してたから行政法のゼミにも所属してたんだけど、どっちかという学生委員会の友達と話したりする方に生活の重点があったね。しょうもない話もしてたけど。授業は……いやー、出、て、たけど……まあ、今の学生の半分ぐらいかな（笑）。面白い話があるんだけど、僕の結婚式のときにゼミの先生を呼んで、あいさつをしてもらったんだよ。そしたら先生が「中森君はけっして僕の助手にはしようと思わなかったけど、中森君がゼミにいとゼミのコンパは円滑に進みました」という話をされて（笑）。ああ僕ってやっぱりこういう存在なんだなって実感したね。

はみだし
すてーじ
お金がすぐになくなります
⇒新歓期 財布の中も 寂しいが



プロフィール

1989年 京都大学法学部入学
1995年 京都大学生生活協同組合に就職
2007年 京都大学生生活協同組合専務理事に就任

現在は二児の父であり、毎週2日は早く帰って家事をする。けれども「実際は3：7だけれども五分五分の気分にさせてくれる奥さんはエライと思う」とのこと。ダンディな笑顔がチャームポイント。

最後に

——組合員に何かひとことお願いします

京都大学の中で京都大学生協が果たしている役割っていうのは非常に大きいと思うんです。たとえば新入生サポートだとかオープンキャンパスだとか、学生支援にいろんな面で関わっています。学生には生協が果たしている役割を知ってもらいたいし、そういう中でもっとこんなことをやってほしい、っていう期待を寄せてほしいです。それに真面目に答えていくことが生協の使命でもあるので、組合員と一緒に京大生協を成長させていきたい。とりわけ、**学生さんには生協という場をうまく利用して、一歩踏み出して自分を成長させてほしいと思います**。

——ありがとうございます

（葉・1 あ）
（我が心にも 木枯らしは吹く；編）